

◆経済産業大臣賞◆

〈学校教育部門〉

「学校生活全般における、全教職員・全生徒によるインターネットの積極的活用」

私立神戸学院大学附属高等学校

〒652-0043 神戸市兵庫区会下山町1-7-1

■実践事例報告の概要

2001年度に、教職員・生徒全員に1人1台のPC環境と、校内すべての机にインターネット環境を整えた。その環境を、①教員生徒間の連絡伝達、②課外活動や海外語学研修における専用BBSの利用(生徒相互間、教員・生徒・保護者間)、③生徒作品のWeb公開、各種コンクールへのエントリー、④サーバーを通じた家庭PCと学校PC間のデータ相互利用、⑤教務処理・生徒指導資料のWeb化などにフル活用している。

実践のねらい

1. 全教職員・全生徒に、「生活のあらゆる場面で情報機器およびインターネットを積極的に活用する」という意識を持たせ、情報社会に積極的に参画する態度を形成する(写真)。
2. 全教科で、積極的に情報機器・インターネットを活用した授業を行う。
3. 生徒は、調べ学習に留まらず、課題提出、教員からの連絡の確認、教員への連絡・質問・相談、課外活動関係の相互連絡、生徒間のコミュニケーションなどに、積極的にインターネットを活用する。
4. 教職員は、上記3に加え、インターネットを通じてリアルタイムに生徒の状況や、他の教職

員の動静を把握し、生徒や保護者に対して、情報伝達の遅れや行き違い、重複のない、きめ細やかな対応を行い、相互の信頼関係を深め、ここの教育を重視する。

5. 生徒作品・教員ホームページ・学年ホームページを積極的に作成することで、教職員・生徒が常に継続的な情報発信を行う態度を形成する。
6. 教職員・生徒は、インターネットを通じて、自宅から学校のサーバーにアクセスし、連絡事項を確認するとともに、ファイルをアップロード・ダウンロードすることで、学校・家庭での作業・学習を継続的に行うことができる。
7. 進学・就職後に、情報機器操作・インターネット利用・情報倫理に関するリーダーシップを発揮することができる生徒を育成する。



実践のねらい
教職員や生徒が情報社会に積極的に参画する態度の形成

写真・ビデオ映像資料から

特徴・工夫・努力した点

1. 学校をあげて情報機器・インターネットを活用した取り組みを行っている。
2. 「活用することが当然である」という意識を高めている。
3. 全教職員・全生徒が、インターネットを用いたコミュニケーションを具体的・積極的に利用できるよう工夫している。

4. 教職員が率先して情報発信を行っている。
5. 本校Webページ内の教職員紹介のページ・各学年のページ・生徒作品のページ・課外活動のページは、教員・生徒による手作りとし、積極的な情報発信を行うよう努力している。

実践内容

1. 全教職員・全生徒に、1人1台のPCと、インターネット・電子メールの環境を整備
2. 学校生活におけるインターネットの活用
 - ・学習用グループウェア
教員から生徒への個人あて連絡、課題の提示と提出、電子投票（アンケート）等
 - ・生徒情報システム
生徒の出欠届出と出欠状況・保健室利用状況・指導記録の入力・確認、成績入力・管理等
 - ・専用BBS
海外語学研修時の現地・学校・家庭の相互連絡、課外活動の意見交換、教職員間の意見交換
 - ・電子メール
教員と生徒の相互連絡、授業における活用（各種応募・校外との交流）、高大連携授業における生徒から大学教員への質問
3. 生徒の状況をリアルタイムに入力・確認することによる、生徒本位のきめ細やかな指導・対応の実践（こころの教育）

実践結果

1. 全教職員・全生徒に、PC・インターネット・電子メールの環境を整備
個人あてお知らせは、「教職員・生徒全員が、いつでもPCを用いることができる」環境があるからこそで、生徒へのきめ細やかな連絡が実現できているといえる。
2. 学習用グループウェアの活用
メッセージの既読・未読を生徒個人単位で確認することができるので、各教員は、生徒の確認状況を把握し、個別に情報機器の活用を促すための指導を行っている。

3. 生徒情報システムの活用

教員が生徒の欠課時数のオーバーに気づかないなどのうっかりミスを防ぐこともできるようになった。また、各教職員が生徒に対する留意事項・指導記録などを書き込み、他の教職員が、その情報を確認し共有することで、生徒・保護者との連絡の遅れや重複、行き違いが防がれ、信頼関係を築きやすくなった。全教職員が、インターネットを用いて「生徒情報システム」を無理なく積極的に活用することができているといえる。

4. 生徒本位のきめ細やかな指導・対応（こころの教育）／教員・生徒・保護者相互間の信頼関係の構築

学習用グループウェアと、生徒情報システムの活用により、教職員が一人ひとりの生徒の現況をリアルタイムに理解し、その生徒に応じた対応を取ることができるようになった。また、学習用グループウェアを活用した、生徒個人あての連絡や電子メールの活用を通じて、プリント配布の手間とコストを低減し、教員が生徒とコミュニケーションをとる時間を増やすことができた。

考察（今後の課題）

実践の内容と結果にも示したように、本校における教育の情報化は、総合的・全校的な実践である。本校では、2001年のカリキュラム改定時より『21世紀のスタンダード』というコンセプトを掲げ、これを実践してきた。これまでの4年間で一応の成果が顕れたといえるだろう。しかし、本校生の中には「学校全体として情報教育環境がまだ十分活用されていない」と感じている者もいる。これらの意見を参考にして、情報に関する意識が高い生徒・保護者にも満足してもらえるような環境を（ハード面・ソフト面・活用面ともに）一層整えてゆかなければならない。また、現在、本校において稼動しているインターネットに接続可能な端末は約700台、Webサーバー（ファイルサーバー兼用）は3台である。これらの維持・保守・機器更新のために、毎年、莫大な費用と労力がかかる。これまでの取り組みを振り返るとともに、効果的・効率的な取り組みについて、さらに充実させてゆきたい。